

埼玉県日本大学土木校友会会報 第3号

1 はじめに

極めて多数の人命と莫大な資産が一瞬のうちに失われるという未曾有の災害から1年が経ちました。東日本大震災により犠牲になられた方々に対しまして、あらためて御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

さて、この会報は校友会活動の状況を少しでもお伝えすることができればと、平成22年3月に第1号を作成し、今回が3号目となりました。少ない紙面でお伝えできることにも限りがありますが、御容赦をお願いいたします。

本校友会は昭和40年に発足して以来、今年で46年目になりました。会員551名からなる埼玉県の土木技術者の中心組織のひとつです。

しかしながら、最近は新入会員が少なく、一例を挙げれば埼玉県職員の平成23年度新入会員は2名だけです。会員の皆様には、土木を目指す学生を身近なところから勧誘し、官民を問わず県内に就職するよう働きかけていただきたいと思います。

ところで、大変うれしいニュースがありました。栗原稔名誉顧問が、昨年秋の叙勲に際し、旭日中綬章を受章されました。栗原名誉顧問のますますの御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

2 平成23年度の活動状況

○大学本部関係

6月17日開催の日本大学理工学部校友会通常総会によって馬場邦明前会長（現相談役）の後任として、早川清一氏が会長に御就任なされました。

○幹事会 平成23年7月6日（水）（於）大宮パイオランドホテル

幹事さんにお集まりいただき、平成23年度の名簿作成と会費の徴収をお願いすると共に、平成22年度事業計画と平成23年度事業計画（案）について説明いたしました。出席者は29名でした。

○役員会・幹事会 平成23年9月14日（水）（於）大宮パイオランドホテル

役員と幹事さんにお集まりいただき、平成23年の総会議案（事業計画、予算、決算及び役員の改選について）を御審議いただきました。4年後の校友会発足50周年に向けた検討をはじめのべきとの意見をいただきました。出席者は31名でした。

○平成23年度総会及び講演会 平成23年10月29日（土）（於）さいたま市民会館おおみや



講演会



御来賓として理工学部から梅村靖弘先生、理工学部校友会の早川清一会長、生産工学部から落合実先生、生産工学部校友会の島袋洋土木部常任幹事、工学部から堀井雅史先生、工学部校友会の手塚公敏会長、日本大学校友会埼玉県支部の野澤孝道様をお招きし、母校の状況などにも触れていただいた御挨拶を頂戴いたしました。総会は22年度の事業報告と決算、23年度の事業計画と予算及び役員の改選を審議し、原案のとおり承認されました。

総会后、県道路街路課の岡田雅洋さんから「福島県での災害復旧支援業務」について、御講演して頂きました。岡田さんは平成23年4月から5月にかけて約1カ月間、福島県で災害復旧業務に従事されました。

被災地の状況について写真を用いて御説明いただくとともに、災害復旧工法の考え方、災害派遣の実務について御報告をいただきました。震災の爪痕、被害の甚大さを改めて感じさせる生々しい内容でした。

最近首都直下型地震への警鐘が声高に叫ばれるなど、いつ関東地方で大震災が発生しても不思議ではありません。それに備え、これまで想定してこなかった事態にも対応しうる体制を構築していくとともに、今後も東北への復旧・復興支援を継続していく必要性を感じました。

今回の講演は、官民の土木技術者に何が求められているかを再認識させ、我々の意識向上を図る良い機会になったのではないかと思います。岡田さんありがとうございました。

今後も、会員皆様からの積極的な発表を期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、総会及び講演会の終了後、先生方を交えた懇親会を実施しました。参加者は55名でした。平成24年度は、ぜひ皆さん声を掛け合って大勢の参加をお願いいたします。

○現地見学会 平成24年2月18日(土) (於)茨城県つくば市



今年度は、筑波研究学園都市にある「地図と測量の科学館」「つくばエキスポセンター」を見学しました。

筑波研究学園都市は、科学技術の振興と高等教育の充実に対する時代の要請にこたえるために整備されました。現在では、人口20万人弱、国、民間合わせて約300に及ぶ研究機関・企業、約1万人以上の研究者を擁する我が国最大の研究開発拠点です。

①国土地理院 地図と測量の科学館

「地図と測量の科学館」は平成8年に設立された、我が国では初めての地図と測量に関する総合展示施設です。古代の測量・地図から宇宙技術を利用した最新の測量・地図までの歴史を訪ねることができます。江戸時代と現在の地図を比べた展示や、地図記号あてクイズなど、大人も子供も楽しむことができました。

屋外の地球ひろばには、直径約22mの日本列島球体模型があります。この上に立つと高度300km上空から日本列島の周辺を眺めることができ、丸い地球を実感できます。

また、東日本大震災に関する写真や地図等の展示がありました。改めてこの大震災を振り返り、今後の地震や災害に私たちがどのように対応すべきかを考えるよい機会となりました。

②(財)つくば科学万博記念財団 つくばエキスポセンター

つくばエキスポセンターは、1985年「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに、筑波研究学園都市で「国際科学技術博覧会(科学万博—つくば'85)」が開催された際に、科学万博を記念する恒久施設の1つとして建設されました。博覧会終了後は、最新の科学技術や身近な科学などに親しんでもらうことを目的に科学館として再オープンし今日に至っています。

世界最大級のプラネタリウムや科学技術に関する体験型の展示物を備えております。また、サイエンスショーや科学教室などのイベントの開催にも力を入れており、見て、触って、楽しく学べる科学館です。

科学万博当時の最先端技術や会場の様子を展示した「科学万博—つくば'85メモリアル」では、数々の展示品から当時を懐かしく思うとともに、これらの成果が今日の我が国の発展につながっていると感じました。

この見学会は、会員の技術の向上ばかりでなく、土木技術や技術者に対する理解を深めていただくことを目的として、会員の御家族や御友人にも参加を頂いております。

参加者は51名でした。御参加ありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。